

い風, 2は横風, 1は南にある時には斜め追風, 北にあがってからは斜め向い風を受ける様な気圧配置になり易い。追い風, 向い風による補正はその影響が相当大きいにもかかわらず, 精度のよい計算図表がなく, 量的に求め難い。第2図中の α はこの影響を考慮して挿入したものである。第2図〔A〕, 〔B〕, 〔C〕は上記の考えを基礎として, 1961年, 1962年および1960年の一部の台風を合せた, 2年余りの実例により決定したものである。

4. 実例による検討

第5図に14個の台風について, 今回の方法(第2報)と天気 Vol. 14, No. 4で述べた方法(第1報)とによる予想値を南方定点の実況(無い場合には定点の階級実測および, 室戸, 足摺の航路標識事務所でも階級実測)と比較した。第2報で述べた方法は, 第1報のものに比べて平均して良好な結果を得ているが, 時には第1報の計算の方がよかったものもある。これ等は第2図を作

する折にも使用した図が大部分であるから厳密な検討とは言い難いが, 観測点に直進した台風6207および途中から西にそれたが, はじめは観測点に直進した6217のはじめの直進中に発せられたうねり, および角度 α が 40° 以下になってから発せられた6120のおわりの部分のうねりの減衰等について, 第2報の改良された点が現われている。

5. 補足

東側を北上する台風の場合の逆風による減衰率がまだよくわからないので, とりあえず $\alpha > 40^\circ$ では係数1.0, $\alpha < 40^\circ$ では0.5としたが, 東側北上の台風の場合には, 特に個々の台風による逆風の吹き方に相違が大きく, 6212の場合には逆風の影響が大きくきいたので大体良好な結果を得たが, 逆風のあまり無かつた6222の場合には計算値が低く出すぎた。これ等については今後の調査が必要である。

国際学術交流委員会便り

今回, 日中友好協会会長から7月22日付で中国人民対外文化協会会長宛に送付された手紙の写しが送付されてきましたので, その要旨をお知らせします。

「中国学術代表団のわが国への招請について」

1963年度日中両国人民間の友好交流の実施にかんする貴協会とわが協会との議定書にふくまれる表記の件につきましては, かねてわが協会の関西及び関東の組織を中心に検討してまいりましたが, このほど招請をすすめる運びにいたしましたので, 左記の通りお知らせ申し上げます。

記

- 1. 時期 今年11月3週間
- 2. 人員 計10名程度(随員通訳を含む)の総合的学術代表団

3. 代表団の構成についての希望

- (A) 自然科学部門2名(気象学, 物理学)
- (B) 人文, 社会科学部門6名(中国史他)

4. 経費 代表団のわが国内における旅費, 宿泊, 食費はわが方負担。

以下省略。

以上のような主旨にもとづき, 一応中国気象学者の来日もその可能性が大きくなってきた。8月5日の気象学会理事会では, 中国気象学者の来日が確定すれば, (9月上旬確定の予定)日中学術交流委員会(仮称)といった歓迎準備委員会をつくり, 種々受入れ体制をつくることにした。また, 中国気象学者の滞日中の経費は学会で負担することになると思いますので, 会員からひろく募金も行いたいと思います。その際はよろしく願います。

【新書紹介】 「日本の天気」高橋浩一郎著

新書版 217頁 岩波書店発行 1936年6月 130円
ガモウが書いた一連の科学書は楽しく読め, 数式を使わずにかなり高度の知識が得られる良書であるが, この「日本の天気」も簡明に日本の一年の天気が解説され, しかも楽しく読める点で, どこか共通したものがあるようだ。同博士の長年の研究である動気候学がこの書のバックボーンだが, それに基礎的な気象の知識が和歌や文学, 天気のことわざ等で肉付され, 集中豪雨, 台風, ス

モッグ等の現象のくわしい説明がある。ジャーナリスト, 学校教師等にとってこれ程便利な手引はないだろう。だが気象を専門としている人々にとっても, 広範囲に気候と把握できる点で必読に値する。最後につけくわえられた「変る気候」は多くの示唆に富み, 気象が人類にとって重要な役割を果していることが結論され, 日本の発展のためにさらに気象学の研究が盛んにならねばならないと感ずる。欲を言えば天気的人工改善について, もう少しくわし解説があればと思う。